

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
 担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 JR山陽本線・呉線（海田市駅～向洋駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	広島県 広島市
起終点	山陽本線（呉線） 自：広島県安芸郡海田町成本（広島県安芸郡海田町栄町） 至：広島県安芸郡府中町鹿籠一丁目（広島県安芸郡海田町新町）	延長			山陽本線3.9km 呉線1.2km
事業概要					
広島市東部地区の安芸郡府中町・海田町及び広島市安芸区・南区の JR 山陽本線と JR 呉線を高架化することにより鉄道で分断された市街地の一体化や道路交通の円滑化等を図り、あわせて街路事業、土地区画整理事業を実施して健全なまちづくりや都市の核づくりを推進する。					
H5年度事業化		R1年度都市計画決定（変更）		H14年度用地着手	
R2年度工事着手					
全体事業費		約915億円		事業進捗率	
				約20%	
				供用済延長	
				— km	
計画交通量					
281,063台時/日（踏切交通遮断量）					
費用対効果		総費用		総便益	
B/C		（残事業）/（事業全体）		（残事業）/（事業全体）	
（事業全体） 1.5		492/804億円		1169/1169億円	
（残事業） 2.4		事業費：491/803億円 維持管理費：1.4/1.4億円		移動時間短縮便益：1126/1126億円 走行経費減少便益：41/41億円 交通事故減少便益：2.2/2.2億円	
				基準年	
				令和5年	
感度分析の結果					
（事業全体）交通量：B/C=1.4～1.6（交通量±10%）（残事業）交通量：B/C=—～—（交通量±10%） 事業費：B/C=1.4～1.6（事業費±10%）事業費：B/C=—～—（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.7（事業期間±20%）事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①市街地分断の解消 鉄道高架化にともない市街地分断が解消する。					
②防災機能の強化 鉄道の高架化及び側道整備により、周辺地区の防災性の向上に寄与する。					
③新たな賑わいの創出 鉄道を高架化することにより新たに生みだされる高架下の空間を有効活用し、商業開発や公共利用等を図ることにより、新しい賑わい空間が創出される。					
関係する地方公共団体等の意見					
沿線自治体である安芸郡府中町及び海田町から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約93% 事業進捗率約20%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
仮線路工事や鉄道高架の詳細設計を行うとともに、残る用地の取得や支障となる地下埋設物の移設等を行っており、引き続き計画どおりの事業完了を目指し推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
鉄道高架の詳細設計を進めていく中で、鉄道高架及び仮線路等の施工方法や構造について鉄道事業者と協議を行いながらコスト縮減に努めていく。					
対応方針					
事業継続					
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

